



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：第9期国会議員選挙をめぐる動き（3日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙他）

### 1. 投票率

第9期国会議員選挙の投票が、3月2日に実施された。イラン国会（定数290）議員選挙は、4年に1度実施される。今回は、当初5,000人以上が立候補を届け出たが、憲法擁護評議会（護憲評議会）の審査を経て、立候補が認められたのは3,444人であった。

政府や国営メディアは高い投票率を記録したとして、選挙の成功を強調している。投票時間が当初より5時間延長され、イラン国営テレビは、投票終了前から独自に、投票率を64%と伝えた。3日、イランの国会議員選挙で内務省の選挙管理委員会は、投票率を64%と発表、一時は過去最高（71%）を更新するとの見通しも伝えられたが、最終的には届かなかった。

3日付ジョムフーリーイエ・エスラーミー紙によると、ナッジャール内務大臣は、全国の投票率は64.2%、テヘラン州全体の平均投票率は52%であると発言した（前回選挙では、全国の投票率は55.4%、テヘラン州では約30~50%であったとされる）。

### 2. 開票結果

2日深夜に開票作業が開始し、4日までに9割の選挙区で開票作業が終了した。4日の内務省の発表によれば、保守派が4分の3以上の議席を獲得した。国営メディアによると、反大統領派が議席の75%前後を獲得し、大統領派の大敗が確実となった。

国営テレビが3日午後には報じた途中集計によると、反大統領派が110議席（現有は約180）以上を獲得したのに対し、大統領派は10議席（現有50~60）、改革派は28議席に留まった。

4日付ハムシャフリー紙、エエテマード紙、テヘラーネ・エムルーズ紙などの現地各紙によると、全国で多くの現職議員が落選し、新人の独立候補が躍進した。内務省によると、反大統領派のラーリージャーニー国会議長やボルーージェルディー国家安全保障・外交委員長らが当選した一方で、大統領の妹であるパルヴィーン・アフマディーネジャードは落選した。

### 3. 第2回投票

内務省HPによると、得票数が同選挙区的全投票数の4分の1未満である議員に関しては、上位30位以内に位置していたとしても、当選するには、事後行われる第2回投票に参加する必要がある。今回は20名程度が第2回投票に参加する見込みである。

国営テレビの報道では、テヘランなどの33選挙区、65議席において、4月に第2回投票が実施される。テヘラン地区では、全30議席のうち確定したのは5議席のみで、50人の候補が残る25議席を再び争う。